

すっきり分かる内部統制

公認会計士 望月 実

公認会計士 花房 幸範

無料レポート「すっきり分かる内部統制」をダウンロードしていただき、ありがとうございました。このレポートは2008年1月30日に阪急コミュニケーションズから発売される「有価証券報告書を使った決算書速読術」の中のコラム①を抜粋したものです。

経済のニュースで「内部統制」が話題になっていますが、「内部統制」という言葉は聞いたことはあっても、その内容はよく分からないという方が多いと思います。そこで、このレポートでは内部統制について必要最小限の知識を分かりやすく説明しています。なお、このレポートはご自由に転送していただいて結構です。みなさまのまわりで内部統制について知りたいという方がいらっしゃいましたらこのレポートを、ぜひご紹介下さい。

このレポートの10ページまでは「内部統制」について説明していますが、それ以降は「有価証券報告書を使った決算書速読術」の紹介になっています。

今後もいろいろな無料レポートをダウンロードできるようにする予定です。無料レポートの情報につきましては、「経済丸わかり～公認会計士が教える使える知識」というメルマガでお伝えしますので、興味のある方は下記のアドレスよりご登録下さい。

望月 実
アカウンティング・インテリジェンス
(HP) <http://ac-intelligence.jp/>
経済丸わかり～公認会計士が教える使える知識
(メルマガ) <http://blog.mag2.com/m/log/0000153671/>

目次

1. すっきり分かる内部統制.....	4
2. こんな人に読んでもらいたい！	10
3. 「有価証券報告書を使った決算書速読術」 <目次>	11
4. まえがき	13
5. 著者プロフィール	18
6. 望月実の書籍.....	19
①<数字がダメな人用>会計のトリセツ	19
②会計を使って経済ニュースの謎を解く	19

1. すっきり分かる内部統制

経済のニュースで「内部統制」が話題になっていますが、「内部統制」という言葉は聞いたことはあっても、その内容はよく分からないという方が多いと思います。また、この無料レポートを読まれている方の中には「内部統制」のシステムを作り上げるために大変な作業をしている方もいらっしゃると思います。「内部統制」は別名「J-SOX」とも呼ばれています

金融商品取引法によって経営者は 2008 年 4 月に開始する事業年度より内部統制報告書と確認書の提出義務を負うことになりましたが、その実態はあまり知られていません。そこで今回は次のような順番で「内部統制」とはどのようなものを説明していきたいと思います。

- | |
|--|
| <ul style="list-style-type: none">(1) J-SOX とは何か(2) 内部統制とは何か(3) 今までの監査とはどう違うのか(4) まとめ |
|--|

(1) J-SOX とは何か

少し前の話になりますが、アメリカで粉飾決算の後に巨額な負債を抱えて破綻したエンロン事件とワールドコム事件が起きました。この事件によりエンロンとワールドコムの監査を担当していたアーサーアンダーセンは、粉飾決算に加担したとして市場から責任を追及され崩壊しました。

この 2 つの事件を契機にアメリカでは会計不信が起こり、証券市場に対する信頼が揺らぐことになりました。

なお、不正会計に対する経営者の責任は日本よりも、アメリカの方が格段に重くなっています。ライブドア事件において堀江被告は、東京地裁より懲役 2 年 6 月の実刑判決が言い渡されました。これに対してワールドコムの経営者に対しては禁錮 25 年、エンロンの経営者であるジェフリー・スキリング被告に対しては、禁錮 24 年 4 か月の実刑判決に加えて、被害者への賠償金として 4, 5 0 0 万ドル (約 5 3 億 7, 0 0 0 万円) の支払いも命じられました。

2001 年 12 月のエンロン事件、2002 年 7 月のワールドコム事件という粉飾決

算に基づく大規模な経営破たんにより企業の内部統制の重要性が認識されました。この2つの事件により失われた証券市場の信頼を回復するために、エンロン事件からわずか8ヶ月で、日本では一般的に企業改革法と訳されている、「上場企業会計改革及び投資家保護法」が制定されました。サーベンス・オクスリー法 (Sarbanes-Oxley Act)では呼びにくいいため、短縮してSOX法と呼ばれるようになりました。

ちなみに、「上場企業会計改革及び投資家保護法」はポール・サーベンス (Paul Sarbanes) 上院議員とマイケル・オクスリー (Michael Oxley) 下院議員の名前にちなんで、サーベンス・オクスリー法 (Sarbanes-Oxley Act)と呼ばれるようになりました。

この法律の中で特に重要なのが、経営者に年次報告書(日本における有価証券報告書)の開示が適切である旨の宣誓書の提出が義務付けられていること (302条)、及び、財務報告に係る内部統制の有効性を評価した内部統制報告書の作成を義務付け、さらに内部統制報告書について公認会計士等の監査を受ける必要があること (404条) です。

その後、日本においても証券取引法上のディスクロージャーをめぐる不適正な事例が相次ぎました。代表的な事例としては、大株主の株式保有比率を過少に記載していた西武鉄道事件、及び粉飾決算を行っていたカネボウ事件、ライブドア事件などがあり、いずれも上場廃止となりました。このような事件を防ぐために、米国のように企業の内部統制の有効性を高めることにより適正な有価証券報告書を開示する必要性が認識されました。

一方で、投資者保護の強化、市場の信頼性の回復、金融マーケットの国際化等を目的に、2006年6月に『証券取引法等の一部を改正する法律』が公布され、従来の「証券取引法」にいくつかの法律を統廃合することによって「金融商品取引法」が作られました。

「金融商品取引法」の中の内部統制の監査を義務づけた部分が、いわゆる日本版SOX法 (J-SOX) と呼ばれています。「金融商品取引法」により、経営者が事業年度ごとに財務報告に係る内部統制の有効性を評価する「内部統制報告書」を作成した上で公認会計士が監査する制度、及び経営者が有価証券報告書・四半期報告書について、記載内容が法令等に基づき適正であることを確認する「確認書」制度が法律として規定されました。

(2) 内部統制とは何か

J-SOX が日本に導入された経緯については理解されたと思いますが、そもそもその前提となる「内部統制」とはどのようなものかというイメージがわからない方も多いと思います。そこで次は「内部統制」について説明します。

内部統制とは簡単に言えば、ビジネスプロセスの中に必要なチェック機能を組み込むことによって、ミス又は不正が起きないようにする仕組みです。抽象的な説明では分かりにくいと思いますので、具体例を使って説明します。ある会社に勤める A さんが会社の備品としてノート PC を 10 台購入するときには、次のような手続（内部統制）が考えられます。

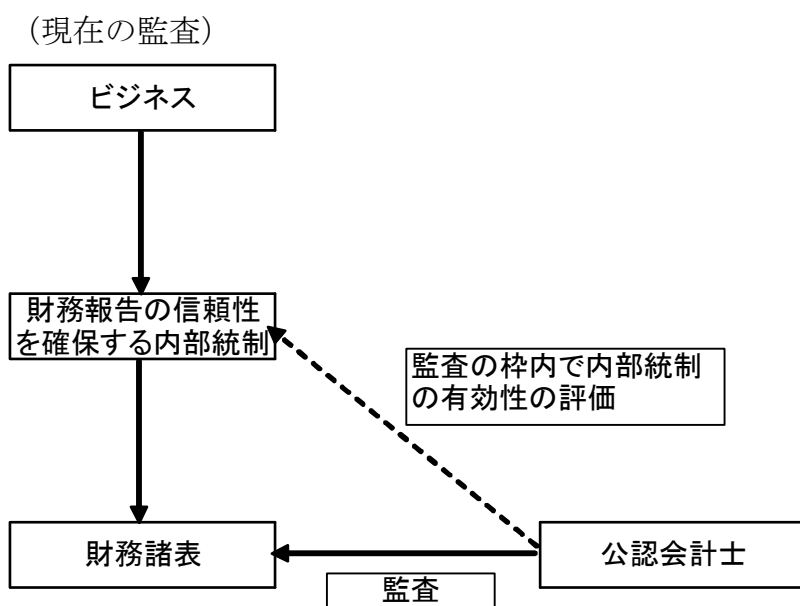
- (1) ノート PC を購入するという稟議を上げる。
- (2) 稟議が通った後でノート PC を購入する。
- (3) 請求書と稟議のコピーを経理部に回す。同時に支払依頼書を資金部に回す。
- (4) 請求書と稟議のコピーを経理担当者がチェックをする。
- (5) (4)の書類を経理部長が再チェックをし、問題なければ資金部に回す。
- (6) 経理部でチェックが終わった書類を資金部のスタッフが受取り、支払依頼書とのチェックを行う。
- (7) (1)～(6)の手続が終了した後で、資金部長が支払承認を行い、ノート PC の代金を支払う。

ビジネス上のミスを防ぐために、内部統制の手続は備品を購入するときだけではなく、売上の計上や商品の仕入を行うとき等のほとんどすべてのビジネスプロセスに必要となります。

今までは会社独自の基準で作られていた「内部統制」ですが、監査を受けるとなると社会通念から判断して一定以上のレベルに引き上げなければなりませんし、内部統制が有効に機能していることを説明するために文書化も必要となります。この内部統制のプロセスの見直し及び文書化にかなりの労力が必要とされるため、現場では大きな負担となっているのです。

(3) 現在の監査とはどう違うのか

上場企業に対しては現在も監査が行われていますが、この監査と2008年4月以降の金融商品取引法による監査はどのように変わるのかを比較しながら説明していきます。

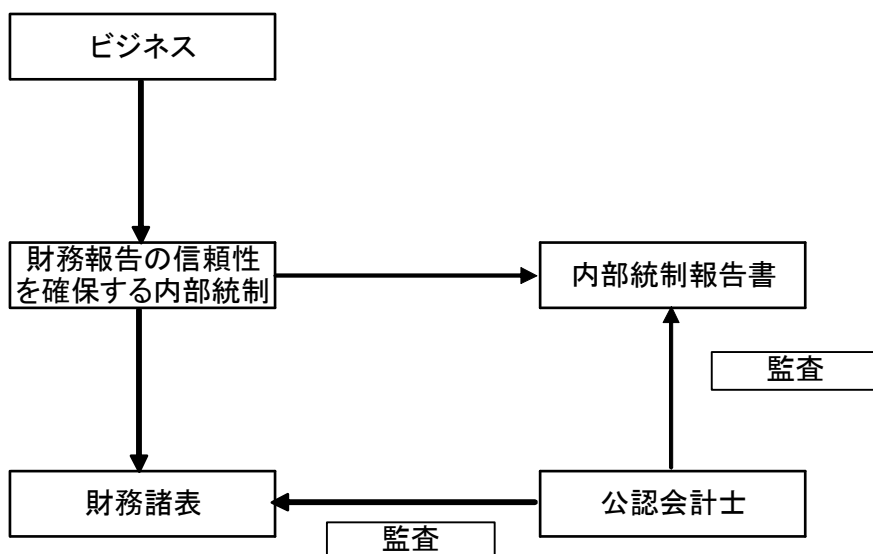


現在は、上場企業が作成した財務諸表が適正に作成されているか否かについて公認会計士が監査を行っています。但し、財務諸表が適正に作成されているかを監査するためには、その前提となる財務報告の信頼性を確保するための内部統制が有効に機能していることが前提となるため、財務諸表監査の枠内で内部統制の有効性についても評価し、その評価に基づいた監査手続を行っています。

ちなみに財務諸表は企業の活動を要約したもので「財務報告の信頼性を確保するための内部統制」とは経理業務を表しているのではなく、売上や仕入の手續や企業の中のITシステムがどのようになっているかというような、財務諸表の数字に影響を与える可能性のあるビジネスプロセス全般を表しています。

ただし、現在の監査では財務諸表が適正に作成されているか否かについて公認会計士が監査報告書上で意見表明を行います。内部統制については意見表明は行っていません。

(2008年4月以降の監査)



2008年4月以降は財務諸表の監査については今までと同様に行いますが、新しく内部統制報告書の監査が行われるようになります。そもそも適正な財務諸表を作成する責任は経営者にあり、現在においても適正な財務諸表を作成するための内部統制の構築と運用について責任を負っています。その責任を果たしていることを内部統制報告書を作成することによって明確にします。

したがって、内部統制報告書は財務情報が適正に作成されることを経営者自ら評価するものであり、有価証券報告書等の企業の財務情報の開示の適正性を補完するものといえます。

それゆえ両者は不可分の関係にあり、有価証券報告書を作成する上場会社は、有価証券報告書と併せて内部統制報告書を提出することになります。また、有価証券報告書の中の連結財務諸表及び個別財務諸表が監査を受けるように、内部統制報告書についても監査人による監査を受けます。

2008年4月以降の監査は財務諸表を監査する監査人と同一の監査人が、財務諸表監査と一体に内部統制報告書を監査することになります。そして、監査人は財務諸表に対する監査意見を監査報告書で表すのと同じように、内部統制報告書に対しても意見を表明することになります。ただし、別々の監査報告書が作られるのではなく、原則として財務諸表監査の監査報告書に合わせて記載されることとなります。

(4) まとめ

最後に頭の中を整理する意味を含めて、もう一度内部統制報告書と監査についての説明をしたいと思います。

内部統制報告書の作成と監査はアメリカだけではなく、英国、フランス、韓国等でも導入されています。日本における同制度は、他の国の事例を参考に日本個別の事情を考慮して作られました。例えば、実効可能性の面から評価・監査に係るコスト負担が過大なものとならないようにする必要があり、日本のSOX法策定に当たって様々な対策が講じられました。

「内部統制報告書」を作成しなければならないのは、原則として「トヨタ」などの上場企業ですが、上場企業が公表している財務諸表はグループ会社全体（トヨタグループ）の業績を表す「連結財務諸表」がメインなので、親会社だけではなくグループの業績に重要な影響を与える子会社などについても、一定レベル以上の「内部統制」を構築する必要があり、全体として大きなコストが発生すると懸念されています。

財務報告に係る内部統制について経営者は、内部統制の構築から始めて最終的な評価を行わなければなりません。その手続において重要なのが文書化の作業です。内部統制の有効性を認識し、評価を行うためには可視化することが重要であり、そのために文書化作業が必要となります。

現在、2008年4月1日から日本版SOX法が適用される上場会社は、膨大な文書化作業に追われています。企業にとっては時間や人件費その他のコストもかかることですので、費用対効果を勘案しながら作業を進めているところですが、これを乗り切って会社の内部統制を再構築することで、日本企業の情報開示がより適正なものとなり、市場の信頼の回復、投資家の保護が期待されています。

2. こんな人に読んでもらいたい！

「有価証券報告書を使った決算書速読術」は次のような方のお役に立てると思います。興味を持たれた方はぜひ、本書をご覧になって下さい。

決算書の読み方のコツを知りたい方は・・・116 ページを

会計を使って営業成績を上げたい方は・・・86 ページを

ニュースで話題の内部統制。J-SOX の意味が分からない方は・・・27 ページを

キャッシュ・フロー計算書の読み方を 30 分でマスターしたい方は・・・236 ページを

スタバとドトール、どちらが儲かっているか知りたい方は・・・201 ページを

巷をにぎわす買収劇。あの会社がなぜ狙われたか知りたい方は・・・155 ページを

転職・就職などで興味あるあの会社の給料が知りたい方は・・・53 ページを

気になるあの会社の出世コースを知りたい方は・・・76, 79, 93 ページを

会社が行っている知られざる研究開発・取り組みを知りたい方は・・・60 ページを

あの会社を実質的に支配しているのは誰かを知りたい方は・・・70 ページを

あの会社もっている財産の内容について詳しく知りたい方は・・・63 ページを

吉本興業は本当に儲かっているのか知りたい方は・・・109 ページを

3. 「有価証券報告書を使った決算書速読術」 <目次>

まえがき

会計を仕事に使っていますか？

できる人は知っている、有価証券報告書の使い方
いちばん効果的だった決算書トレーニング

本書の内容

第1章 有価証券報告書を使った決算書速読術

1. 有価証券報告書とは何か
2. 有価証券報告書の入手方法
3. 有価証券報告書に書かれている内容
4. 何のために決算書を読むのか
5. 有価証券報告書を使った決算書速読術

コラム① すっきり分かる内部統制

第2章 有価証券報告書から会社の情報を入手する

- ① 会社の業績はここを見よう
 - ② 会社の歴史を知りたいね
 - ④ グループ企業が語ること
 - ⑤ あの会社の給料はいくらか
 - ⑥ ビジネスリスクはここに書いてある
 - ⑦ 知らなかった、こんな研究開発
 - ⑧ 会社の財産こんなものまで
 - ⑨ ストック・オプションがもらえる会社はここだ！
 - ⑩ 会社を支配しているのは誰か
 - ⑪ 配当政策と株価の推移
 - ⑫ 有名社長の経歴を見てみよう
 - ⑬ 会社で出世しているのは誰か
 - ⑭ コーポレート・ガバナンスはどうなっているの？
- コラム② 有価証券報告書から10億の売上を上げた営業マンの戦略

第3章 有価証券報告書を使って決算書を速読する

1. 有価証券報告書にのっている財務情報
2. 数字の裏のストーリーを読み取る
3. 有名企業の決算書を速読してみよう

Case 1. 吉本興業～あの会社は儲かっているのか？～

- (1) 主要な経営指標等の推移
- (2) 吉本興業はどんな会社か
- (3) 決算書をプレビューする
- (4) 吉本興業は儲かっているのか？
- (5) 吉本興業はどんな財産をもっているのか
- (6) さらに分析をしたいときは
- (7) 吉本興業の決算書速読に使用したデータ

Case 2. ブルドックソース～あの会社はなぜ狙われたのか～

- (1) 主要な経営指標等の推移
- (2) ブルドックソースはどんな会社か
- (3) 財務数値から魅力を考える
- (4) スティール・パートナーズの損得勘定
- (5) 戦いはまだ終わっていない
- (6) ブルドックソースの決算書速読に使用したデータ

Case 3. ミクシィ～あの会社のビジネスモデルを知りたい～

- (1) 主要な経営指標等の推移
- (2) ミクシィとはどんな会社か
- (3) 上場によって決算書がどのように変わったのか
- (4) 上場による資金調達とその使い道
- (5) ミクシィの ROE はなぜ急落したのか
- (6) ミクシィの決算書速読に使用したデータ

Case 4. スターバックス VS ドトール ～あのライバル企業はどちらが儲かっているのか

- (1) 顧客視点から見る事業の特色
- (2) コーヒーを多く売って売るのはどちらか？
- (3) 損益計算書からビジネスモデルを分析する
- (4) 小売で儲けるスターバックス、卸売で儲けるドトール
- (5) スターバックス VS ドトールの決算書速読に使用したデータ

Case 5. 伊勢丹 VS 三越～あの合併はうまく行くのか～

- (1) 再編劇が続く百貨店業界
- (2) 統合比率 1 対 0.34 の意味を探る
- (3) 営業利益率の差はどこから生まれたのか (会計編)
- (4) 営業利益率の差はどこから生まれたのか (実践編)
- (5) 伊勢丹 VS 三越の決算書速読に使用したデータ

コラム③ 30分で分かるキャッシュ・フロー計算書の読み方
あとがき～書を読んで、町へ出よう

4. まえがき

会計を仕事に使っていますか？

ビジネスマンは、英語、パソコン、会計の3つのスキルを身につける必要があると言われていています。国際化社会になればなるほどビジネスに英語を使う機会は増えていきますし、現在ではパソコンなしで日々のビジネスを行うことは不可能といってもいいでしょう。ところが、経理以外の方で会計を仕事に役立っているビジネスマンはどれくらいいらっしゃるのでしょうか？

この本を読まれている方は「会計入門」「決算書の読み方」というような本を読まれ、すでに会計や決算書の基本的な知識はお持ちだと思います。一方で私が会計士の仕事をしていると、「会計の本を読んだり、セミナーなどで勉強すると、そのときは分かったような気がするけど、実際の営業の仕事にどう役立てれば良いかが分からないんですよね。会計ってどうやって使えば良いんですか？」というような質問をよくされます。

そこでどのような勉強をされたかをお聞きすると、決算書の読み方であれば営業利益率や自己資本比率等の数字を計算して、いろいろな会社を比較されたとのこと。例えば自動車業界の本田技研工業と三菱自動車の2007年3月期の決算書を比較すると、本田技研工業の営業利益率は7.7%、三菱自動車の営業利益率は1.8%となっており、本田技研工業の方が効率的に経営を行っていることが分かります。

数字と数字を比較すれば、どちらの会社が効率的に経営をしているかが分かりますが、なぜその会社が効率的に経営をしているのかは分かりません。このような情報を入手しただけでは、会計を仕事に役立てるのは難しいですね。

確かに会計が分かるようになると、会社の経営状況が分かるようになりますので、大きな視点からビジネスを見ることが出来ます。しかしながら営業を行うときには、本田技研工業が儲かっているかという全社的な情報だけでなく、従業員の数ほどの位か、どこに工場や営業所があるか、どの拠点に投資予算がありそうか、というような実際のビジネスの内容が分かる情報が必要となります。

実はそのような情報は無料で入手することができます。すべての上場企業は有価証券報告書を作成しており、その中にはビジネスの内容が詳しく書かれています。つまり、有価証券報告書の使い方をマスターすることができれば、ビジネスをしていく上で有利な情報を効率的に入手することができるようになるのです。

できる人は知っている有価証券報告書の使い方

有価証券報告書は投資家に対して企業の情報を提供するために作られているので、決算書だけではなく、その企業の歴史、どんな資産を持っているか、ビジネスにはどのようなリスクがあるか、どんな研究開発活動を行っているかというようなことが書かれています。

有価証券報告書と聞くと、専門知識がないと読めないのではないかと感じるかもしれませんが、すべての有価証券報告書は同じフォーマットで作成されていますので、一度読み方を覚えてしまえば効率的に必要な情報を手に入れることができます。

とはいえ、有価証券報告書は結構なボリュームがあるので、最初から最後まで読むのはとても大変です。できる人は限られた時間内で大きな成果を出すために、有価証券報告書を最初から最後まで読むようなことはなく、目的にフォーカスして必要な情報を取り出しています。例えば次のような情報を有価証券報告書の中から取り出すことができます。

従業員給料
会社が持っている財産の内容（土地、建物など）
会社が行っているビジネスの内容
会社が抱えているビジネスリスク
会社を支配している大株主の状況
配当政策や株価

就職や転職を考えている人はその会社の給料に興味があると思いますし、卒論やビジネスで他の会社を分析しなければならないときは、どんなビジネスを行っているのかを知る必要があります。

つまり、できる人は会計を数字と数字の比較だけで終わらせるのではなくて、会計の数字からその裏のビジネスを読み取る、言いかえれば数字の裏のストーリーを読み取り、仕事に役立てています。

いちばん効果的だった決算書トレーニング

会計の勉強を始めた大部分の方に共通する悩みは「入門書とかセミナーでは分かったつもりになるんだけど、実際の会社の決算書を読もうとしても難しくてよく分からない。」ということです。

その気持ち、とてもよく分かります。実は私も会計士になったばかりの頃は、同じように悩んでいたからです。会計士の試験に合格した時点で会計の知識は十分にありましたが、それでも実際の企業の決算書を目の前にすると、この決算書のどこから手をつければ良いのだろうかと思いついて固まってしまいました。これはたぶん、今まで趣味で山登りをしていた人が、急にエベレストに登れといわれて途方に暮れるようなものだと思います。

決算書を難しいと感じる一番の理由は、決算書の中のどの数字を読めば良いかが分からないことです。例えば同じ数字でも、数学や物理であれば問題に出てくる数字を公式に当てはめれば答えを出すことができるので、どの公式を使えば良いか迷うことはあると思いますが、どの数字を使えば良いかと迷うことはないと思います。

ところが実際の会社の決算書（P125～P131）に使われている数字は、300個を超えています。300以上の数字の中から目的に合った数字を選択し、その数字を比較することによって分析をしていきます。ここで大きな問題が発生します。数字を選択しなければ分析をすることはできないのですが、そもそもどの数字を選択すれば効率的に決算書を分析できるのが分からないのです。

とはいえ私の仕事は会計士ですので、お客様の前で決算書を見たときに、スムーズにコメントをしなければなりません。そのためいろいろな方法で決算書の読み方を練習したのですが、有価証券報告書を使ったトレーニングが一番効果がありました。

その方法を簡単に説明すると、有価証券報告書の中には売上や利益などがなぜ増えたかという決算書の数字を分析しているページがあります。このページ書いてある内容を、実際の決算書に書き込んでいながら決算書の分析のコツを覚えるというものです。英語やパソコンも本を読んだだけでは分からないことも、実際の仕事の中で使っていくうちに理解できたと思います。会計も同じように、本を読むだけでは分からないことも、実際に手を動かしていくとだんだん分かってきます。

私が行った企業研修でこの方法を試したところ、「こんな方法があったんですか！」と非常に好評でした。私はこの方法によって理論としての会計を、実際にビジネスに役立つ道具に変えることができました。

本書の内容

有価証券報告書を使った決算書速読術とは、有価証券報告書をデータベースのように使い必要な情報を取り出す技術です。しかしながら、有価証券報告書自体があまりなじみがありませんので、第1章「有価証券報告書を使った決算書速読術」では有価証券報告書はどのようなものか、どこで手にはいるのかというような基本的なことから決算書の速読方法までを説明しています。また、コラム①「すっきり分かる内部統制」では、経済のニュースで話題になっている「内部統制監査」について解説しています。

第2章「有価証券報告書から会社の情報を入手する」では、有価証券報告書からどのような情報を入手できるかを説明しています。また、コラム②「有価証券報告書から10億円の売上を上げた営業マンの戦略」では営業マンがどのように有価証券報告書を使えば、効率的に営業活動を行えるかをお話しています。

第3章では実際に吉本興業、ミクシィ、スターバックスなどの有価証券報告書を使いながら決算書速読術の説明をしています。「吉本興業は儲かっているのか」、「ミクシィは上場でどのように変わったのか」などの問に対して、有価証券報告書をどのように使えば必要な情報を取り出せるかという解説をしています。

また、この本を読まれている方の中には、貸借対照表、損益計算書は分かるけど、キャッシュ・フロー計算書の読み方はよく分からないと感じている方もいらっしゃると思います。そこで、キャッシュ・フロー計算書の説明をコラム③「30分でわかるキャッシュ・フロー計算書の読み方」として書かせていただきました。

私は、数字と言葉は同じようなものだと感じています。英語と同じで、実際に使う（レッスンをする）ことを通じて、はじめて上手くなっていきます。そして、上手くなればなるほど楽しくなります。

数字に強くなるコツは、数字を見る前に何を読み取りたいかをはっきりさせ、それに従って数多くの数字を見るという訓練を繰り返すことです。有価証券報告書の使い方をマスターするにはある程度の時間がかかりますが、使えるようになるのと、なかなか便利なものです。

この本を一通り読んだら、次は実際にみなさまもご自分の興味がある会社の有価証券報告書を読んでみて下さい。新しい知識を習得するときには、知りたいという欲求が一番のエンジンとなりますので。

情報化社会で差をつけるためには、質の良い情報を短時間で入手する必要があります。有価証券報告書を使った決算書速読術をマスターすると、ワンランク上の情報を手に入れることができるようになります。その情報を使って、みなさまがよりよい成果を出すことができれば、このうえない喜びを感じます。

2007年12月
望月 実
花房 幸範

5. 著者プロフィール

望月 実

1972年愛知県名古屋市生まれ。
立教大学卒業後、大手監査法人に入社。
監査、株式公開業務、会計コンサルティング等を担当。
2002年に独立し、望月公認会計士事務所を設立。
ドラッカー学会会員。

多くのビジネスマンから仕事で数字をどう使えば良いかという質問を受けた経験より、現在は「日本人を数字に強くする」をミッションとして執筆活動、セミナー、人気メルマガ「経済丸わかり～公認会計士が教える使える知識」の発行など精力的な活動を展開中である。

著書に＜数字がダメな人用＞会計のトリセツ、「会計を使って経済ニュースの謎を解く」（共に日本実業出版社）がある。

著者 Web サイト URL

「アカウンティング・インテリジェンス」

<http://ac-intelligence.jp/>

花房幸範

会計コンサルタント。1975年生まれ。
中央大学商学部卒業後、大手監査法人入社。
監査業務の他、株式公開、デューデリジェンス業務等に携わる。
その後、投資会社にて財務経理部長としてM&Aに従事。
退職後、会計コンサルタントとして現在に至る。

6. 望月実の書籍

①<数字がダメな人用>会計のトリセツ



私も会計の勉強は苦痛でしたが、実際に仕事で会計を使うようになると、会計って面白いなと感じるようになりました。

それは、会計を知っているからこそ見えてくる世界があるからです。

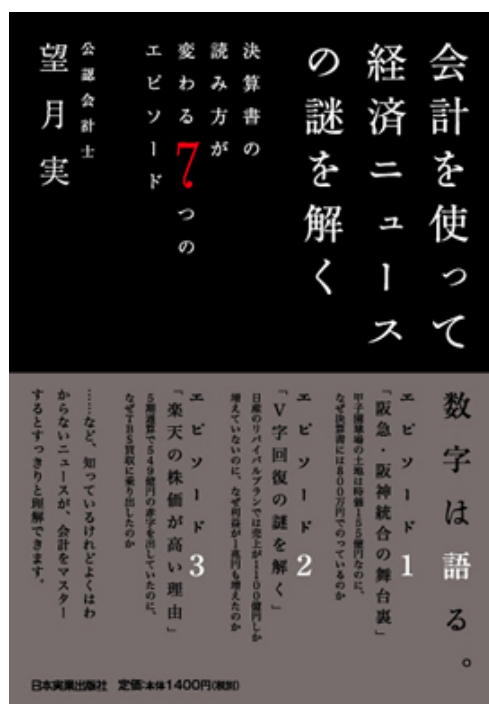
そこで、私が現場で使っている会計をそのまま実況中継したところ、今までにない会計入門書ができました。

この方法ならば回り道をせずに、会計の一番美味しい部分から勉強を始めることができますので。

「会計のトリセツ」紹介ページ

<http://ac-intelligence.jp/torisetsu/index.html>

②会計を使って経済ニュースの謎を解く



会計を難しいと感じるのは、決算書の数字と実際のビジネスの結びつきをイメージすることができないからです。

そこで本書では、ライブドア、日産、楽天、阪急・阪神の統合などの話題になった経済ニュースを題材として、

「ビジネス」、「会計」、「決算書」をバランス良く説明し、それらがどのように結びついているのかをイメージできるようになっています。

「会計を使って経済ニュースの謎を解く」紹介ページ

<http://ac-intelligence.jp/mystery/index.html>